

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																											
専門学校埼玉自動車大 学校		昭和51年3月31日		新井 和徳		〒 362-0806 (住所) 埼玉県北足立郡伊奈町小室1123 (電話) 048-723-5522																																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																											
学校法人佐藤栄学園		昭和46年1月27日		田中 淳子		〒 330-0855 (住所) 埼玉県さいたま市大宮区上小町476 (電話) 048-641-9642																																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																										
工業	専門課程	一級自動車整備科				—	平成20年文部科学省 認定																																										
学科の目的	自動車整備技術とこれに必要な知識を授け、社会人として必要な徳操を涵養し併せて一級自動車整備士の資格取得に必要な教育を施すことを目的とする。																																																
認定年月日	平成31年3月5日																																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																										
4年	昼間	3600	1045	0	2902	0	0																																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																																											
790人	606人	10人		46人	0人	46人																																											
学期制度	■1学期: 4月1日～7月31日 ■2学期: 8月1日～12月31日 ■3学期: 1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 評価点に応じた5段階 評価の方法: 日常学習状況、課題学習報告、試験、出席状況等の総合評価																																												
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 7月30日～8月20日 ■冬季: 12月25日～1月8日 ■学年末: 3月19日～3月31日			卒業・進級 条件	卒業要件: 各試験に合格し、履修時間・教科全てを満たした者。 評定は、5段階評価の2以上、出席率は、90%以上 進級要件: 各試験に合格し、履修時間・教科全てを満たした者。 評定は、5段階評価の2以上、出席率は、90%以上																																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 二者面談・家庭連絡、また内容に応じ家庭訪問、三者面談を実施し対応している。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 走行試運転、東京オートサロン等 ■サークル活動: 有																																												
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 埼玉トヨタ自動車(株)、埼玉日産自動車(株)、(株)ホンダカーズ埼玉、埼玉ダイハツ販売(株)、(株)関東マツダ他 ■就職指導内容 卒業年度の前年度1～2月に校内企業説明会を実施。履歴書記入、面接指導は随時実施。 ■卒業生数 215 人 ■就職希望者数 156 人 ■就職者数 156 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73 % ■その他 ・進学者数: 59人 (令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級自動車整備士</td> <td>②</td> <td>38人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>二級自動車整備士</td> <td>②</td> <td>198人</td> <td>192人</td> </tr> <tr> <td>自動車車体整備士</td> <td>②</td> <td>57人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級自動車整備士	②	38人	33人	二級自動車整備士	②	198人	192人	自動車車体整備士	②	57人	57人																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																														
一級自動車整備士	②	38人	33人																																														
二級自動車整備士	②	198人	192人																																														
自動車車体整備士	②	57人	57人																																														
中途退学 の現状	■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者606名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者596名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病気治療等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任を中心とした本人とのカウンセリングおよび保護者との協力指導			■中退率 2%																																													
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																																
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																																
当該学科の ホームページ URL	https://www.sajidai.ac.jp/																																																

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備技術者育成における最高位の資格取得が出来る学科であり、より実践的かつ最新の知識・技能を有する自動車整備士を輩出することが専門課程の責務であることから、当該学科においては、指導要件を満たした教員からの授業のほか、4年次には企業へのインターンシップを実施している。授業内容や教材など教育全般に対して、企業並びに学生から意見、改善点などを広く教育にフィードバックし、教育課程の改善を行うことを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・教育課程編成委員会構成員は、学校法人佐藤栄学園専門学校埼玉自動車大学校教職員と企業関係者等の外部役員からなるものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を目的とし協力して行うものと位置付けている。  
・教育課程編成委員会の意見は、カリキュラム検討会議で審査されたのち、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中妻 茂	一般社団法人埼玉県自動車整備振興会事業 教育部部長代理	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	①
稲毛田 恒行	埼玉スバル株式会社本部サービス部部长	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	③
小貫 圭介	株式会社モトーレン埼玉 総務管理部採用責任者	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	③
金子 勉	専門学校埼玉自動車大学校校長	令和3年4月1日～令和4年3 月31日(1年)	
町田 孝宏	専門学校埼玉自動車大学校教育課長	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	
杉浦 功	専門学校埼玉自動車大学校実習課長	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	
黒田 宗佑	専門学校埼玉自動車大学校事務長	令和3年4月1日～令和5年3 月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月25日

第2回 令和4年3月18日

※新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議にて実施

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「最新技術の理解・研究は大切であるが、整備業務の大半は定期点検なので、点検作業の重要性を見直し授業に取り入れてほしい。」との意見をいただいたことから、この体験実習はもちろんのこと、1年次から予防整備(定期点検)の大切さを認識させ、1年次の学科「法規」において、また、2年次の実習「定期点検」においても点検整備の重要性を徹底された。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車の技術は日進月歩の速さで進んでいる。整備士資格取得の為の教科書を中心とした授業に加え、最新の技術理解及び将来勤務するであろう企業の整備状況を理解することを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・就職内定先22社と連携し、企業側において技術担当者を講師として29日間にわたるインターンシップを実施。  
・二級自動車整備士の資格取得学生対象の為、最新の自動車技術理解及び専用診断機・汎用診断機の両機種にて故障診断を学ぶ。  
・個々の学生対象に評価実施。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
体験実習 (インターンシップ)	道路運送車両法第78条に規定する自動車分解整備事業の認証を受けた事業場において、自動車の高度整備技術を習得する。	各自就職内定先企業

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

日進月歩する自動車技術に対応すべく、就業規則第12章第87条等による研修を積極的に行うことで、学生に対する教育の充実と教員個々のスキルアップを図ることを方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「マツダ教員向け技術講習会」 連携企業等: 株式会社関東マツダ  
 期間: 令和3年7月21日(水) 対象: 教員  
 内容: MAZDA M HYBRIDの基本構造や整備方法等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校教職員向けオンラインセミナー 連携企業等: (一社)大阪府専修学校各種学校連合会  
 期間: 令和3年10月28日(木) 対象: 教員  
 内容: 今こそ考える留学生支援コロナ禍における専門学校のチャレンジ

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「マツダ教員向け技術講習会」 連携企業等: 株式会社関東マツダ  
 期間: 令和3年7月21日(水) 対象: 教員  
 内容: MAZDA M HYBRIDの基本構造や整備方法等

研修名: 「いすゞグループメカニズム学習会」 連携企業等: いすゞ自動車販売株式会社  
 期間: 令和3年8月18日(水) 対象: 教員  
 内容: トラックの先端技術講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校教職員向けオンラインセミナー 連携企業等: (一社)大阪府専修学校各種学校連合会  
 期間: 令和3年10月28日(木) 対象: 教員  
 内容: 今こそ考える留学生支援コロナ禍における専門学校のチャレンジ

研修名: 中堅教員研修会 連携企業等: (一財)職業教育・キャリア教育財団  
 期間: 令和3年8月12日(木)・13日(金) 対象: 教員  
 内容: 新任指導力(メンタリング)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・自己評価結果の客観性、透明性を高める。
- ・専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。
- ・学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	職業教育の特色・学校の将来構想・理念、目的の周知
(2) 学校運営	運営方針に沿った事業計画・意志決定機能の有効化・情報公開の適正
(3) 教育活動	カリキュラムの工夫、開発・職業教育の体系的な位置付け
(4) 学修成果	就職率、資格取得率の向上・退学率の低減・卒業生、在校生の評価
(5) 学生支援	就職率、資格取得率の向上・退学率の低減・卒業生、在校生の評価
(6) 教育環境	就職に関する支援体制・学生の健康管理・課外活動支援・保護者との連携
(7) 学生の受入れ募集	高等学校等に対する情報提供・学生募集活動の適正化・情報公開
(8) 財務	中長期的な財務基盤の安定化・会計監査の適正化・財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守・個人情報保護の保護・自己評価の実施
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・ホームページで学校の新しい情報を伝えてほしい・・・ホームページを全面改訂し学校の情報を分かり易く、魅力的に紹介
- ・一級整備士試験不合格者へのフォロー・・・学校の指定した期間、時間に自由に来校し、新しい練習問題に取り組める
- ・若者の自動車離れへの対応・・・小・中学生対象の整備体験の実施

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
遊間 尚美	専門学校埼玉自動車大学校親交會會長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	PTA
丸山 奈美子	専門学校埼玉自動車大学校親交會會副會長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	PTA
桑原 恵美子	専門学校埼玉自動車大学校親交會會副會長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	PTA
原島 政幸	有限会社Car Body Shop Vicky 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
細井 和弘	株式会社K-STAGE 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.saijidai.ac.jp/>

公表時期: 令和3年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策に関し、企業と教職員と保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校法の定めに基づき「財産目録」「賃借対照表」「収支計算表」「事業報告書」「監事による監査報告書」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人本部経理部において取り扱い、「学校法人佐藤栄学園財務書類等閲覧規程」に基づいた運用を実施しており、インターネットでの閲覧また学園広報誌「さとえ学園新聞」で財務公開を実施している。また、令和3年度に向けて、授業計画、教育科目配分などシラバス等の情報公開準備も進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者、所在地、連絡先、校長、学校の沿革、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	成績評価、進級・卒業条件、授業時間、学期、「高度専門士」称号付与、主な就職先、就職率、学科別情報
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の概要、就職指導体制、実践的職業教育の概要
(5) 様々な教育活動・教育環境	主な学校行事、教育環境、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生相談、健康管理、防災対策
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	財務の状況
(9) 学校評価	自己点検報告書、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.saijidai.ac.jp/>

公表時期: 令和3年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程一級自動車整備科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			一般教養	「体育」基礎体力の向上維持	1・全	9	3			○	○	○			
2	○			自動車工学	「ガソリン」「シャシ」「ジーゼル」「電気工学」「数学」「材料」「製図」自動車の構造・作動・数学・材料・図面等全般を学ぶ	1・全	255	3	○			○	○			
3	○			自動車整備	「整備総合」「二輪整備」自動車整備の基本を学ぶ	1・2・3	36	3	○			○	○			
4	○			機器の構造・取扱	「整備機器」「測定機器」「検査機器」機器の構造や取り扱い方法を学ぶ	1・全	40	3	○			○	○			
5	○			法規	「自動車法規」自動車整備に関する法規を学ぶ	1・全	30	3	○			○	○			
6	○			手仕上げ	やすり、弓ノコ、ハンマーなどの手工具取り扱いを習得する	1・1	42	1			○	○	○			
7	○			機械工作作業	機械工作機器の取扱い、工作方法を習得する	1・1	42	1			○	○	○			
8	○			測定	測定機器の取扱い、測定方法を習得する	1・1	42	1			○	○	○			
9	○			車両基礎	実車整備の基礎を習得する	1・1	84	1			○	○	○			
10	○			エンジン基礎	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	1・2・3	168	2			○	○	○			
11	○			シャシ基礎	シャシの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	1・2・3	168	2			○	○	○			
12	○			電装品整備	電装品の点検・分解・組立・調整・検査を習得する	1・2	49	1			○	○	○			
13	○			ジーゼルエンジン整備	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	1・2・3	70	1			○	○	○			
14	○			自動車工学	「シャシ」「電子」「性能」自動車の構造・作動・数学・電気電子理論等全般を学ぶ	2・全	133	15	○			○	○			
15	○			自動車整備	「整備総合」「ガソリン」「シャシ」「ジーゼル」「電装」「故障原因探求」自動車整備技術を学ぶ	2・全	164	17	○			○	○			

16	○		自動車検査	自動車検査作業について学ぶ	2・全	31	3	○		○	○						
17	○		ジーゼルエンジン整備	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	2・1	42	1			○	○	○					
18	○		自動車検査	保安基準に適合するように自動車検査手法を習得する	2・1	84	1			○	○	○					
19	○		シャシ応用	シャシの点検・分解・組立・調整・検査を習得する 故障原因を探求し、正常な状態に戻す技術を習得する	2・1	84	1			○	○	○					
20	○		性能実験	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	2・3	35	1			○	○	○					
21	○		定期点検整備	車両全般の点検・分解・組立・調整・検査を習得する 故障原因を探求し、正常な状態に戻す技術を習得する	2・2	98	1			○	○	○					
22	○		エンジン応用	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を習得する 故障原因を探求し、正常な状態に戻す技術を習得する	2・2	98	1			○	○	○					
23	○		二輪実習	車両全般の点検・分解・組立・調整・検査を習得する	2・2	49	1			○	○	○					
24	○		特殊	車両全般の点検・分解・組立・調整・検査を習得する 故障原因を探求し、正常な状態に戻す技術を習得する	2・3	70	1			○	○	○					
25	○		故障原因探究	故障原因を探求し、正常な状態に戻す技術を習得する	2・3	70	1			○	○	○					
26	○		修正整備機器	エンジン、シャシの点検・分解・組立・調整・検査を習得する	2・3	35	1			○	○	○					
27	○		自動車工学	「電気・電子理論」「図面」「構造性能」「力学数学」「材料」「燃料・潤滑」 自動車の構造・作動・数学・材料・図面等全般をさらに深く、詳しく学ぶ	3・全	93	9	○			○	○					
28	○		自動車整備	「エンジン」「シャシ」「電装」「整備総合」「故障原因探求」「環境保全」「安全管理」 整備技術全般をさらに深く、詳しく学ぶ	3・全	216	14	○			○	○					
29	○		機器の構造・取扱	「整備機器」「測定機器」「検査機器」 機器の構造や取り扱い方法全般をさらに深く、詳しく学ぶ	3・全	30	3	○			○	○					
30	○		自動車検査	自動車検査作業全般をさらに深く、詳しく学ぶ	3・2	12	1	○			○	○					
31	○		法規	自動車整備に関する法規全般をさらに深く、詳しく学ぶ	3・3	21	1	○			○	○					
32	○		機械工作作業	手仕上げ作業、機械工作を早く正確に行う技術を習得する	3・1	15	1			○	○	○					
33	○		測定	測定機器の取扱い、測定作業を早く正確に行う技術を習得する	3・1	15	1			○	○	○					
34	○		エンジン基礎	エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・1	42	1			○	○	○					

35	○	電装品整備	電装品の点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・1	42	1			○	○	○		
36	○	シャシ基礎	シャシの点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・1	42	1			○	○	○		
37	○	故障原因探究基礎	故障原因を探索し、正常な状態に戻す技術を早く正確に行う技術を習得する	3・1	42	1			○	○	○		
38	○	エンジン応用	高難度・最先端エンジンの点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・2・3	91	2			○	○	○		
39	○	シャシ応用	高難度・最先端シャシの点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・2・3	91	2			○	○	○		
40	○	電装応用	高難度・最先端電装品の点検・分解・組立・調整・検査を早く正確に行う技術を習得する	3・2・3	91	2			○	○	○		
41	○	故障原因探究応用	高難度・最先端技術の故障原因を探索し、より早く正確に正常な状態に戻す技術を習得する	3・2・3	126	2			○	○	○		
42	○	自動車検査	保安基準に適合するように自動車検査手法を習得する	3・2	35	1			○	○	○		
43	○	自動車概論	「電子回路」「電子制御」高難度診断を習得するために必要な基礎知識・工学基礎を学ぶ	4・1・3	68	4	○	△		○	○		
44	○	マネジメント	「経済学概論」「会社法概論」「マーケティング概論」一級自動車整備士に広く求められている知識及び技能を習得する	4・3	47	3	○	△		○	○		
45	○	体験実習	道路運送車両法第78条に規定する自動車分解整備事業の認証を受けた事業場において、自動車の高度整備技術を習得する	4・1・2	240	2			○	○	○		
46	○	評価実習	体験実習の効果を評価する実習で、高難度な点検整備、故障原因探求、総合診断を習得する	4・全	672	6		△	○	○	○		
47	○	サービスマネジメント	コンプライアンス教育、プレゼンテーション教育、カスタマサービス等一級自動車整備士に広く求められている知識及び技能を習得する	4・2・3	91	3		△	○	○	○		
合計				47	科目		4150 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：各試験に合格し、履修時間・教科、全てを満たした者に限り卒業を認	1学年の学期区分	3期
履修方法：日常学習状況、課題学習報告、試験、出席状況の総合評価とする。	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。